



CAR システム レポートの設定

CAR は、次の 3 つのレベルのユーザ用のレポート機能を備えています。

- 管理者：ロード バランシング、システム パフォーマンス、およびトラブルシューティングに役立つシステム レポートを生成する。
- マネージャ：予算管理やセキュリティの目的、および通話の音声品質の判別のためのコール モニタリングで役立つ、ユーザ、部門、および QoS 用のレポートを生成する。
- 個々のユーザ：自分の通話の課金レポートを生成する。

この章の構成は、次のとおりです。

- [QoS レポートの設定 \(P.19-2\)](#)
- [QoS パラメータの設定 \(P.19-9\)](#)
- [トラフィック レポートの設定 \(P.19-16\)](#)
- [Malicious Call Details レポートの設定 \(P.19-24\)](#)
- [Precedence Call Summary の設定 \(P.19-26\)](#)
- [クライアント マターコード レポートの設定 \(P.19-28\)](#)
- [Authorization Code Name レポートの設定 \(P.19-30\)](#)
- [Authorization Level レポートの設定 \(P.19-32\)](#)
- [システムの概要の設定 \(P.19-34\)](#)
- [CDR エラーの設定 \(P.19-36\)](#)
- [QoS パラメータの演算子 \(P.19-38\)](#)



(注) 職務権限によっては、このヘルプで説明されているすべてのレポートにはアクセスできない場合があります。

QoS レポートの設定

QoS 詳細レポートを生成するのは、CAR 管理者だけです。QoS 詳細レポートは、指定された期間の Cisco CallManager ネットワーク上の着信コールおよび発信コールによる QoS 評価の詳細を表示します。

QoS 要約レポートを生成するのは、マネージャまたは CAR 管理者です。QoS 要約レポートは、指定されたコール分類と期間で得られた QoS 等級の配分を示す、立体的な円グラフを表示します。また、このレポートは、QoS ごとにコールを要約する表も表示します。CDR と CMR のコール詳細情報、および P.17-10 の「サービス品質 (QoS) 値の定義」に記載されている QoS パラメータが、個々の音声品質カテゴリにコールを割り当てる基準になります。

システムが自動的に生成するレポートを表示するか、新しいレポートを生成することができます。レポートの自動生成をスケジュールできるのは、CAR 管理者だけです。詳細については、P.16-13 の「システム スケジューラの設定」を参照してください。

次の項では、QoS 詳細レポートおよび QoS 要約レポートの設定方法を説明します。

- [QoS 詳細レポートの設定 \(P.19-2\)](#)
- [QoS 要約レポートの設定 \(P.19-6\)](#)

QoS 詳細レポートの設定



注意

CAR は、オフピーク時だけ使用してください。それ以外の時間に使用すると、データの収集とレポートの生成により、Cisco CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

ここでは、システムの QoS についての詳細情報を生成、表示、またはメール送信する方法を説明します。

手順

ステップ 1 **System Reports > QoS > Detail** の順に選択します。

QoS Detail ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 **Select Call Types** 領域で、レポートに含めるコールタイプのチェックボックスをオンにします。表 19-1 では、コールタイプについて説明します。

表 19-1 QoS 詳細レポートのコールタイプ

コールタイプ	説明
Internal	Cisco CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco CallManager ネットワークで着信したクラスタ内コール (ゲートウェイは使用されません)。
Local	公衆電話交換網 (PSTN) を通じて市外局番のない番号に転送される市内通話、またはローカルエリアコードの 1 つを含む市内通話。
Long Distance	Cisco CallManager ネットワーク内で発信され、PSTN を通過する長距離通話。
International	Cisco CallManager ネットワーク内で発信され、PSTN を通過する国際通話。
On Net	ある Cisco CallManager クラスタで発信され、別のクラスタで着信する、クラスタ間の発信通話。
Incoming	Cisco CallManager ネットワーク外で発信され、ゲートウェイを介して Cisco CallManager ネットワークに入った着信コール。

表 19-1 QoS 詳細レポートのコール タイプ (続き)

コール タイプ	説明
Tandem	Cisco CallManager ネットワーク外で発信され、ゲートウェイを介して Cisco CallManager ネットワークに入った後、ゲートウェイを介して Cisco CallManager ネットワークから転送された着信コール。
Others	その他のすべての発信通話 (たとえば、フリーダイヤル番号など)。

- ステップ 3** Select QoS 領域で、レポートに含める音声品質カテゴリのチェックボックスをオンにします。P.17-10 の「サービス品質 (QoS) 値の定義」で設定されたパラメータは、すべての音声品質カテゴリを決定する基準になります。

表 19-2 QoS 詳細レポートの音声品質

音声品質	説明
Good	このコールの QoS は、可能な範囲で最高です。
Acceptable	このコールの QoS は、やや劣りますが、許容可能な範囲内です。
Fair	このコールの QoS は、劣りますが、使用可能な範囲内です。
Poor	このコールの QoS は、十分ではありません。
NA	このコールは、設定された QoS カテゴリのどのカテゴリにも該当しません。

- ステップ 4** QoS 情報を表示する期間の日付範囲を選択します。
- ステップ 5** Select Users フィールドで、すべてのユーザを選択するか、特定ユーザを検索することができます。
- ステップ 6** すべてのユーザを選択するには、Select All Users チェックボックスをオンにします。

ステップ 7 個々のユーザを選択するには、User ID フィールドに個人のユーザ ID を入力します。

ステップ 8 Add ボタンをクリックします。

ステップ 9 付属の検索機能を使用することもできます。P.18-28 の「ユーザの検索」を参照してください。

ステップ 10 CSV 形式でレポートを表示する場合は、Report Format 領域で CSV (comma separated value) を選択します。PDF 形式でレポートを表示する場合は、Report Format 領域で PDF (portable document format) を選択します。

CSV ファイルは、CAR で表示するか、ディスクに保存して Microsoft Excel などのスプレッドシート アプリケーションを使用して表示できます。PDF ファイルは、Adobe Acrobat Reader を使用して CAR で表示できます。

ステップ 11 View Report ボタンをクリックします。

CSV を選択した場合、レポートが生成され、ファイルを表示するか、ディスクに保存するかを選択するように求められます。PDF を選択した場合は、レポートが表示されます。

ステップ 12 レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.18-26 の「レポートのメール送信」に記載されている手順を実行してください。

関連項目

- QoS 詳細レポートの結果 (P.A-7)
- サービス品質 (QoS) 値の定義 (P.17-10)
- QoS 要約レポートの設定 (P.19-6)

QoS 要約レポートの設定



注意

CAR は、オフピーク時だけ使用してください。それ以外の時間に使用すると、データの収集とレポートの生成により、Cisco CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

ここでは、システムの QoS についての要約情報を生成、表示、またはメール送信する方法を説明します。

手順

ステップ 1 マネージャである場合は、**QoS > Summary** の順に選択し、**ステップ 3** に進みます。CAR 管理者である場合は、**ステップ 2** に進みます。

QoS Summary ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 CAR 管理者である場合は、**System Reports > QoS > Summary** の順に選択します。

QoS Summary ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Available Reports フィールドで、自動的に生成されたレポート（入手可能な場合）を選択するか、デフォルトの Generate New Report を使用します。

ステップ 4 Select Call Types 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 19-3 では、コール タイプについて説明します。

表 19-3 QoS 要約レポートのコール タイプ

コール タイプ	説明
Internal	Cisco CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco CallManager ネットワークで着信したクラスタ内コール (ゲートウェイは使用されません)。
Local	公衆電話交換網 (PSTN) を通じて市外局番のない番号に転送される市内通話、またはローカル エリア コードの 1 つを含む市内通話。
Long Distance	Cisco CallManager ネットワーク内で発信され、PSTN を通過する長距離通話。
International	Cisco CallManager ネットワーク内で発信され、PSTN を通過する国際通話。
On Net	ある Cisco CallManager クラスタで発信され、別のクラスタで着信する、クラスタ間の発信通話。
Incoming	Cisco CallManager ネットワーク外で発信され、ゲートウェイを介して Cisco CallManager ネットワークに入った着信コール。
Tandem	Cisco CallManager ネットワーク外で発信され、ゲートウェイを介して Cisco CallManager ネットワークに入った後、ゲートウェイを介して Cisco CallManager ネットワークから転送された着信コール。
Others	その他のすべての発信通話 (たとえば、フリーダイヤル番号など)。

ステップ 5 **ステップ 3** で Generate New Report を選択した場合、レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

ステップ 6 CSV 形式でレポートを表示する場合は、Report Format 領域で CSV (comma separated value) を選択します。PDF 形式でレポートを表示する場合は、Report Format 領域で PDF (portable document format) を選択します。

CSV ファイルは、CAR で表示するか、ディスクに保存して Microsoft Excel などのスプレッドシート アプリケーションを使用して表示できます。PDF ファイルは、Adobe Acrobat Reader を使用して CAR で表示できます。

ステップ 7 View Report ボタンをクリックします。

CSV を選択した場合、レポートが生成され、ファイルを表示するか、ディスクに保存するかを選択するように求められます。PDF を選択した場合は、レポートが表示されます。

ステップ 8 レポートをメールで送信する場合は、**Send Report** ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.18-26 の「レポートのメール送信」](#)に記載されている手順を実行してください。

関連項目

- [QoS 詳細レポートの設定 \(P.19-2\)](#)
- [QoS 要約レポートの結果 \(P.A-9\)](#)
- [サービス品質 \(QoS\) 値の定義 \(P.17-10\)](#)

QoS パラメータの設定

ゲートウェイ別の QoS レポートを生成するのは、CAR 管理者だけです。このレポートは、選択したゲートウェイについて、選択した QoS 基準を指定期間に満たしたコール数のパーセントを表示します。

コールタイプ別の QoS レポートを生成するのは、CAR 管理者だけです。このレポートは、選択されたタイプのすべてのコールについて、指定された期間のジッタ、待ち時間、およびパケット消失情報を表示します。

次の項では、ゲートウェイ別およびコールタイプ別の QoS パラメータの設定方法を説明します。

- [ゲートウェイ別の QoS の設定 \(P.19-9\)](#)
- [コールタイプ別の QoS の設定 \(P.19-12\)](#)

ゲートウェイ別の QoS の設定



注意

CAR は、オフピーク時だけ使用してください。それ以外の時間に使用すると、データの収集とレポートの生成により、Cisco CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

ここでは、選択されたすべてのゲートウェイについての QoS 情報を生成、表示、またはメール送信する方法を説明します。

始める前に

[P.16-10 の「ゲートウェイの設定」](#)に記載されている手順を使用して、ゲートウェイを設定してください。

手順

ステップ 1 **System Reports > QoS > By Gateways** の順に選択します。

QoS based on Gateways ウィンドウが表示されます。

■ QoS パラメータの設定

ステップ 2 Generate Reports フィールドで、表 19-4 の説明に従って、時間を選択します。

表 19-4 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	選択したゲートウェイごとに、ステップ 6 で指定する期間に QoS 基準を満たしたコール数のパーセントを表示します。パーセントの結果は、時刻別に表示されます。
Day of Week	選択したゲートウェイごとに、ステップ 6 で指定する期間に QoS 基準を満たしたコール数のパーセントを表示します。パーセントの結果は、曜日別に表示されます。
Day of Month	選択したゲートウェイごとに、ステップ 6 で指定する期間に QoS 基準を満たしたコール数のパーセントを表示します。パーセントの結果は、日付別に表示されます。

ステップ 3 Jitter フィールドで、使用する演算子を選択し、ジッタの値を入力します。演算子については、P.19-38 の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。

ステップ 4 Latency フィールドで、使用する演算子を選択し、待ち時間の値を入力します。演算子については、P.19-38 の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。

ステップ 5 Lost Packets フィールドで、使用する演算子を選択し、消失パケット数の値を入力します。演算子については、P.19-38 の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。

ステップ 6 通話情報を表示する期間の日付範囲を選択します。

ステップ 7 レポートに含めるゲートウェイのタイプを選択するために、ウィンドウの左側の列にある **Gateway Types** をクリックします。

ツリー構造を展開すると、ユーザが選択したゲートウェイのタイプが表示されます。

ゲートウェイ タイプではなく、特定のルート パターンまたはハントパイロットを使用するゲートウェイを選択するには、ウィンドウの左側の列にある **Route Patterns/Hunt Pilots** をクリックします。

ツリー構造を展開すると、ユーザが選択したルートパターンが表示されます。



(注) ウィンドウ左側の列にある **Route Patterns/Hunt Pilots** ボックスにルートパターンまたはハントパイロットの名前の一部を入力して、特定のルートパターンまたはハントパイロットを検索することもできます。CAR は、検索文字列と一致するルートパターンまたはハントパイロットを検索します。

ステップ 8 リストからゲートウェイ タイプを選択します。

ゲートウェイの名前が **List of Gateways** ボックスに表示されます。



(注) **List of Gateways** ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されているゲートウェイが 200 個まで表示されます。

ステップ 9 **List of Gateways** ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



(注) 一度に最大 15 個のゲートウェイにレポートを作成できます。

ステップ 10 下向き矢印アイコンをクリックして、選択したゲートウェイを **Selected Gateways** ボックスのリストに移動させます。

選択したゲートウェイが **Selected Gateways** ボックスに表示されます。

ステップ 11 CSV 形式でレポートを表示する場合は、**Report Format** 領域で CSV (comma separated value) を選択します。PDF 形式でレポートを表示する場合は、**Report Format** 領域で PDF (portable document format) を選択します。

■ QoS パラメータの設定

CSV ファイルは、CAR で表示するか、ディスクに保存して Microsoft Excel などのスプレッドシート アプリケーションを使用して表示できます。PDF ファイルは、Adobe Acrobat Reader を使用して CAR で表示できます。

ステップ 12 View Report ボタンをクリックします。

CSV を選択した場合、レポートが生成され、ファイルを表示するか、ディスクに保存するかを選択するように求められます。PDF を選択した場合は、レポートが表示されます。

ステップ 13 レポートをメールで送信する場合は、**Send Report** ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.18-26 の「レポートのメール送信」](#)に記載されている手順を実行してください。

関連項目

- [ゲートウェイ別の QoS レポートの結果 \(P.A-10\)](#)
- [QoS パラメータの演算子 \(P.19-38\)](#)
- [コールタイプ別の QoS の設定 \(P.19-12\)](#)

コールタイプ別の QoS の設定

ここでは、特定タイプのすべてのコールについての QoS 情報を生成、表示、またはメール送信する方法を説明します。

**注意**

CAR は、オフピーク時だけ使用してください。それ以外の時間に使用すると、データの収集とレポートの生成により、Cisco CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

ステップ 1 System Reports > QoS > By Call Types の順に選択します。

QoS based on Call Types ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Generate Report フィールドで、表 19-5 の説明に従って、時間を選択します。

表 19-5 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	コールタイプごとに、ステップ 7 で指定する期間に QoS 基準を満たしたコール数のパーセントを表示します。パーセントの結果は、時刻別に表示されます。
Day of Week	コールタイプごとに、ステップ 7 で指定する期間に QoS 基準を満たしたコール数のパーセントを表示します。パーセントの結果は、曜日別に表示されます。
Day of Month	コールタイプごとに、ステップ 7 で指定する期間に QoS 基準を満たしたコール数のパーセントを表示します。パーセントの結果は、日付別に表示されます。

ステップ 3 Jitter フィールドで、使用する演算子を選択し、ジッタの値を入力します。演算子については、P.19-38 の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。

ステップ 4 Latency フィールドで、使用する演算子を選択し、待ち時間の値を入力します。演算子については、P.19-38 の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。

ステップ 5 Lost Packets フィールドで、使用する演算子を選択し、消失パケット数の値を入力します。演算子については、P.19-38 の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。

ステップ 6 Select Call Types 領域で、レポートに含めるコールタイプのチェックボックスをオンにします。表 19-6 では、コールタイプについて説明します。

表 19-6 コール タイプ別の QoS パラメータ

コール タイプ	説明
Internal	Cisco CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco CallManager ネットワークで着信したクラスタ内コール (ゲートウェイは使用されません)。
Local	公衆電話交換網 (PSTN) を通じて市外局番のない番号に転送される市内通話、またはローカル エリア コードの 1 つを含む市内通話。
Long Distance	Cisco CallManager ネットワーク内で発信され、PSTN を通過する長距離通話。
International	Cisco CallManager ネットワーク内で発信され、PSTN を通過する国際通話。
On Net	ある Cisco CallManager クラスタで発信され、別のクラスタで着信する、クラスタ間の発信通話。
Incoming	Cisco CallManager ネットワーク外で発信され、ゲートウェイを介して Cisco CallManager ネットワークに入った着信コール。
Tandem	Cisco CallManager ネットワーク外で発信され、ゲートウェイを介して Cisco CallManager ネットワークに入った後、ゲートウェイを介して Cisco CallManager ネットワークから転送された着信コール。
Others	その他のすべての発信通話 (たとえば、フリーダイヤル番号など)。

ステップ 7 通話情報を表示する期間の日付範囲を選択します。

ステップ 8 CSV 形式でレポートを表示する場合は、Report Format 領域で CSV (comma separated value) を選択します。PDF 形式でレポートを表示する場合は、Report Format 領域で PDF (portable document format) を選択します。

CSV ファイルは、CAR で表示するか、ディスクに保存して Microsoft Excel などのスプレッドシート アプリケーションを使用して表示できます。PDF ファイルは、Adobe Acrobat Reader を使用して CAR で表示できます。

ステップ 9 View Report ボタンをクリックします。

CSV を選択した場合、レポートが生成され、ファイルを表示するか、ディスクに保存するかを選択するように求められます。PDF を選択した場合は、レポートが表示されます。

ステップ 10 レポートをメールで送信する場合は、**Send Report** ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.18-26 の「レポートのメール送信」](#)に記載されている手順を実行してください。

関連項目

- [コールタイプ別の QoS レポートの結果 \(P.A-11\)](#)
- [QoS パラメータの演算子 \(P.19-38\)](#)
- [ゲートウェイ別の QoS の設定 \(P.19-9\)](#)

トラフィック レポートの設定

トラフィック要約レポートを生成できるのは、CAR 管理者だけです。このレポートは、指定された期間の通話量についての情報を表示します。選択したコールタイプと QoS 音声品質カテゴリだけを含みます。



ヒント

1 時間ごとまたは 1 日ごとのコール数を調べるには、このレポートを使用します。このレポートは、キャパシティ プラニングのために高トラフィック パターンおよび低トラフィック パターンを識別する場合に役立ちます。

内線番号別のトラフィック要約レポートを生成できるのは、CAR 管理者だけです。このレポートは、指定された期間と内線番号の通話量についての情報を表示します。選択したコールタイプと内線番号だけを含みます。



ヒント

このレポートを使用すると、指定したユーザグループ別、部門別、またはロビーの電話機や会議室の電話機など別の基準で、コールの使用状況を追跡できます。このレポートは、1 週間ごとに生成されるように設定できます。このレポートは、使用量の多いユーザを判別する場合、または指定する複数のユーザにわたり使用レベルを集計することによって使用量の多いグループを判別する場合に役立ちます。

次の項では、トラフィック要約レポートおよび内線番号別のトラフィック要約レポートの設定方法を説明します。

- [トラフィック要約の設定 \(P.19-17\)](#)
- [内線番号別のトラフィック要約の設定 \(P.19-20\)](#)

トラフィック要約の設定

トラフィック要約レポートを生成するのは、CAR 管理者だけです。このレポートは、指定された期間の通話量についての情報を表示します。

システムが自動的に生成するレポートを表示するか、新しいレポートを生成することができます。詳細については、[P.16-13](#) の「システム スケジューラの設定」を参照してください。



注意

CAR は、オフピーク時だけ使用してください。それ以外の時間に使用すると、データの収集とレポートの生成により、Cisco CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

ここでは、システムのトラフィックについての要約情報を生成、表示、またはメール送信する方法を説明します。

手順

ステップ 1 **System Reports > Traffic > Summary** の順に選択します。

Traffic Summary ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Generate Report フィールドで、[表 19-7](#) の説明に従って、時間を選択します。

表 19-7 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 6 で指定する期間について、システム内の平均コール数を時刻別に表示します。
Day of Week	ステップ 6 で指定する期間について、システム内の平均コール数を曜日別に表示します。
Day of Month	ステップ 6 で指定する期間について、システム内の平均コール数を日付別に表示します。

■ トラフィック レポートの設定

- ステップ 3** Available Reports フィールドで、自動的に生成されたレポート（入手可能な場合）を選択するか、デフォルトの Generate New Report を使用します。
- ステップ 4** Select Call Types 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 19-8 では、コール タイプについて説明します。

表 19-8 コール タイプ別のトラフィック要約

コール タイプ	説明
Internal	Cisco CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco CallManager ネットワークで着信したクラスタ内コール（ゲートウェイは使用されません）。
Local	公衆電話交換網（PSTN）を通じて市外局番のない番号に転送される市内通話、またはローカル エリア コードの 1 つを含む市内通話。
Long Distance	Cisco CallManager ネットワーク内で発信され、PSTN を通過する長距離通話。
International	Cisco CallManager ネットワーク内で発信され、PSTN を通過する国際通話。
On Net	ある Cisco CallManager クラスタで発信され、別のクラスタで着信する、クラスタ間の発信通話。
Incoming	Cisco CallManager ネットワーク外で発信され、ゲートウェイを介して Cisco CallManager ネットワークに入った着信コール。
Tandem	Cisco CallManager ネットワーク外で発信され、ゲートウェイを介して Cisco CallManager ネットワークに入った後、ゲートウェイを介して Cisco CallManager ネットワークから転送された着信コール。
Others	その他のすべての発信通話（たとえば、フリーダイヤル番号など）。



(注) 図および表に表示されるコール数は、1 日あたりの平均コール数です。そのため、生成されるデータが少なく、大きな日付範囲を選択した場合は、レポートに非常に小さい値が表示され、その値が 0 と扱われて、グラフが表示されません。たとえば、2 つの月曜日を含む 8 日間の Day of Week レポートを生成する場合、Monday に表示されるデータは、両方の月曜日の平均コール数 (各月曜日のすべてのコールの合計数を 2 で割ったもの) です。同様に、Hour of Day レポートの場合、05-06 に表示されるデータは、レポート用に選択した日付範囲内で 5 ~ 6 時に行われたコールの 1 日あたりの平均数です。

- ステップ 5** Select QoS 領域で、レポートに含める音声品質カテゴリのチェックボックスをオンにします。P.17-10 の「サービス品質 (QoS) 値の定義」で設定されたパラメータは、すべての音声品質カテゴリを決定する基準になります。

表 19-9 QoS 詳細レポートの音声品質

音声品質	説明
Good	このコールの QoS は、可能な範囲で最高です。
Acceptable	このコールの QoS は、やや劣りますが、許容可能な範囲内です。
Fair	このコールの QoS は、劣りますが、使用可能な範囲内です。
Poor	このコールの QoS は、十分ではありません。
NA	このコールは、設定された QoS カテゴリのどのカテゴリにも該当しません。

- ステップ 6** ステップ 3 で Generate New Report を選択した場合は、レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

- ステップ 7** CSV 形式でレポートを表示する場合は、Report Format 領域で CSV (comma separated value) を選択します。PDF 形式でレポートを表示する場合は、Report Format 領域で PDF (portable document format) を選択します。

■ トラフィック レポートの設定

CSV ファイルは、CAR で表示するか、ディスクに保存して Microsoft Excel などのスプレッドシート アプリケーションを使用して表示できます。PDF ファイルは、Adobe Acrobat Reader を使用して CAR で表示できます。

ステップ 8 View Report ボタンをクリックします。

CSV を選択した場合、レポートが生成され、ファイルを表示するか、ディスクに保存するかを選択するように求められます。PDF を選択した場合は、レポートが表示されます。

ステップ 9 レポートをメールで送信する場合は、**Send Report** ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.18-26 の「レポートのメール送信」](#)に記載されている手順を実行してください。

関連項目

- [トラフィック要約レポートの結果 \(P.A-12\)](#)
- [内線番号別のトラフィック要約の設定 \(P.19-20\)](#)

内線番号別のトラフィック要約の設定

内線番号別のトラフィック要約レポートを生成するのは、CAR 管理者だけです。このレポートは、指定された期間と内線番号の通話量についての情報を表示します。

ここでは、ユーザの内線番号に基づいてトラフィック要約レポートを生成、表示、またはメール送信する方法を説明します。

**注意**

CAR は、オフピーク時だけ使用してください。それ以外の時間に使用すると、データの収集とレポートの生成により、Cisco CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。


手順

ステップ 1 **System Reports > Traffic > Summary By Extension** の順に選択します。

Traffic Summary based on Extension(s) ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Generate Report フィールドで、表 19-10 の説明に従って、時間を選択します。

表 19-10 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	<p>選択した内線番号について、システム内の平均コール数を選択した日付範囲の時刻別に表示します。</p> <p> (注) 1ヶ月を超える日時の範囲を指定することはできません。</p>
Day of Week	<p>選択した内線番号について、システム内の平均コール数を選択した日付範囲の曜日別に表示します。</p> <p> (注) 1ヶ月を超える日時の範囲を指定することはできません。</p>
Day of Month	<p>選択した内線番号について、システム内の平均コール数を選択した日付範囲の日付別に表示します。</p> <p> (注) 1ヶ月を超える日時の範囲を指定することはできません。</p>

ステップ 3 Select Call Types 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 19-11 では、コール タイプについて説明します。

表 19-11 コール タイプ別のトラフィック要約 (内線番号)

コール タイプ	説明
Internal	Cisco CallManager ネットワークで発信され、同じ Cisco CallManager ネットワークで着信したクラスタ内コール (ゲートウェイは使用されません)。
Local	公衆電話交換網 (PSTN) を通じて市外局番のない番号に転送される市内通話、またはローカル エリア コードの 1 つを含む市内通話。
Long Distance	Cisco CallManager ネットワーク内で発信され、PSTN を通過する長距離通話。
International	Cisco CallManager ネットワーク内で発信され、PSTN を通過する国際通話。
On Net	ある Cisco CallManager クラスタで発信され、別のクラスタで着信する、クラスタ間の発信通話。
Incoming	Cisco CallManager ネットワーク外で発信され、ゲートウェイを介して Cisco CallManager ネットワークに入った着信コール。
Others	その他のすべての発信通話 (たとえば、フリーダイヤル番号など)。



(注) 図および表に表示されるコール数は、1 日あたりの平均コール数です。そのため、生成されるデータが少なく、大きな日付範囲を選択した場合は、レポートに非常に小さい値が表示され、その値が 0 と扱われて、グラフが表示されません。たとえば、2 つの月曜日を含む 8 日間の Day of Week レポートを生成する場合、Monday に表示されるデータは、両方の月曜日の平均コール数 (各月曜日のすべてのコールの合計数を 2 で割ったもの) です。同様に、Hour of Day レポートの場合、05-06 に表示されるデータは、レポート用に選択した日付範囲内で 5 ~ 6 時に行われたコールの 1 日あたりの平均数です。

ステップ 4 Select Extensions フィールドで、すべての内線番号を選択するか、ユーザに基づいて内線番号を検索することができます。



(注) 「!」や「X」などのワイルドカード パターンを入力して、内線番号を検索できます。「!」は各桁が 0～9 のいずれかである任意の n 桁を示し、「X」は 0～9 の範囲の 1 桁を示します。

- ステップ 5** すべての内線番号を選択するには、**Select All Extensions** チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6** ユーザに基づいて内線番号を選択するには、**Extension** フィールドに個人の内線番号を入力します。
- ステップ 7** **Add Extension** ボタンをクリックします。
- ステップ 8** 付属の検索機能を使用することもできます。
- ステップ 9** CSV 形式でレポートを表示する場合は、**Report Format** 領域で **CSV (comma separated value)** を選択します。PDF 形式でレポートを表示する場合は、**Report Format** 領域で **PDF (portable document format)** を選択します。

CSV ファイルは、CAR で表示するか、ディスクに保存して Microsoft Excel などのスプレッドシート アプリケーションを使用して表示できます。PDF ファイルは、Adobe Acrobat Reader を使用して CAR で表示できます。

- ステップ 10** **View Report** ボタンをクリックします。

CSV を選択した場合、レポートが生成され、ファイルを表示するか、ディスクに保存するかを選択するように求められます。PDF を選択した場合は、レポートが表示されます。

- ステップ 11** レポートをメールで送信する場合は、**Send Report** ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.18-26](#) の「**レポートのメール送信**」に記載されている手順を実行してください。

関連項目

- [トラフィック要約レポートの結果 \(P.A-12\)](#)
- [トラフィック要約の設定 \(P.19-17\)](#)

Malicious Call Details レポートの設定

Malicious Call Details レポートを生成するのは、CAR 管理者だけです。このレポートには、悪意のあるコールの詳細が表示されます。

ここでは、悪意のあるコールの詳細レポートを生成、表示、またはメール送信する方法を説明します。



注意

CAR は、オフピーク時だけ使用してください。それ以外の時間に使用すると、データの収集とレポートの生成により、Cisco CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

ステップ 1 **System Reports > Malicious Call Details** の順に選択します。

Malicious Call Details ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 **From Date** ドロップダウン リスト ボックスで、悪意のあるコールの詳細を表示する期間の開始年月日を選択します。

ステップ 3 **To Date** ドロップダウン リスト ボックスで、悪意のあるコールの詳細を表示する期間の終了年月日を選択します。

ステップ 4 **Report Format** で、**CSV オプション ボタン**または**PDF オプション ボタン**のいずれかを選択します。

ステップ 5 レポートを表示するには、**View Report** をクリックします。

指定した日付範囲の Malicious Call Details レポートが、選択した形式で表示されます。



(注) このレポートから、**Back**、**Send Report**、**Help**、または **Close** をクリックすることにより、前のウィンドウに戻る、レポートをメールで送信する、オンラインヘルプにアクセスする、またはウィンドウを閉じることができます。レポートをメールで送信する場合は、[ステップ 8](#) に進みます。

ステップ 6 レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[P.18-26](#) の「[レポートのメール送信](#)」を参照してください。

関連項目

- [Malicious Call Details レポートの結果 \(P.A-13\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 14 章「System Reports」

参考資料

- [Cisco CallManager 機能およびサービスガイド](#)

Precedence Call Summary の設定

Precedence Call Summary レポートを生成するのは、CAR 管理者だけです。このレポートには、選択する優先値のコール要約が表示されます。

ここでは、Precedence Call Summary レポートを生成、表示、またはメール送信する方法を説明します。



注意

CAR は、オフピーク時だけ使用してください。それ以外の時間に使用すると、データの収集とレポートの生成により、Cisco CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

ステップ 1 **System Reports > Precedence Call Summary** の順に選択します。

Call Summary by Precedence ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 **Generate Reports** フィールドで、[表 19-10](#) の説明に従って、時間を選択します。

ステップ 3 **Select Precedence Levels** フィールドで、レポートに表示する優先レベルをオンにするか、**Select All** をクリックしてすべての優先レベルをオンにします。



(注) **Clear All** をクリックすると、優先レベルのチェックボックスがオフになります。

ステップ 4 **From Date** ドロップダウン リスト ボックスで、優先レベル別要約情報を表示する期間の開始年月日を選択します。

ステップ 5 **To Date** ドロップダウン リスト ボックスで、優先レベル別要約情報を表示する期間の終了年月日を選択します。

ステップ 6 Report Format で、CSV オプション ボタンまたは PDF オプション ボタンのいずれかを選択します。

ステップ 7 レポートを表示するには、**View Report** をクリックします。

指定した日付範囲の Call Summary by Precedence レポートが、選択した形式で表示されます。



(注) このレポートから、**Back**、**Send Report**、**Help**、または **Close** をクリックすることにより、前のウィンドウに戻る、レポートをメールで送信する、オンラインヘルプにアクセスする、またはウィンドウを閉じることができます。レポートをメールで送信する場合は、[ステップ 8](#)に進みます。

ステップ 8 レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[P.18-26](#) の「[レポートのメール送信](#)」を参照してください。

関連項目

- [Precedence Call Summary レポートの結果 \(P.A-13\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 14 章「System Reports」

参考資料

- *Cisco CallManager 機能およびサービスガイド*

クライアント マターコード レポートの設定

クライアント マターコード レポートを生成できるのは、CAR 管理者だけです。選択された各クライアント マターコードに関連するコールについて、発信番号と宛先番号、発信日時、通話時間（秒）、コール分類を示すレポートを生成できます。

特定のクライアント マターコードの使用状況を示すレポートを生成する手順は、次のとおりです。



注意

CAR は、オフピーク時だけ使用してください。それ以外の時間に使用すると、データの収集とレポートの生成により、Cisco CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

ステップ 1 **System Reports > FAC CMC > Client Matter Code** の順に選択します。

Call Details for Client Matter Code ウィンドウに、システムで設定されているすべてのクライアント マターコードが一覧表示されます。

ステップ 2 List of Client Matter Codes ボックスで、レポートに含めるコードを選択します。



(注) 最大 100 個のクライアント マターコードを選択できます。

ステップ 3 Down ボタンをクリックして、選択したコードを Selected Client Matter Codes ボックスに追加します。

このレポートには、データが使用可能であり、このボックスにリストされているすべてのコードが含まれます。

ステップ 4 From Date プルダウン リスト ボックスと To Date プルダウン リスト ボックスに、クライアント マターコードの情報を表示する期間の日付範囲を入力します。

ステップ 5 CSV (comma separated value) 形式でレポートを生成する場合は、Report Format で CSV オプション ボタンを選択します。PDF (portable document format) 形式でレポートを生成する場合は、Report Format で PDF オプション ボタンを選択します。



(注) CSV ファイルは、CAR で表示するか、ディスクに保存して Microsoft Excel などのスプレッドシート アプリケーションを使用して表示できます。PDF ファイルは、Adobe Acrobat Reader を使用して CAR で表示できます。

ステップ 6 View Report をクリックします。

CSV を選択した場合、レポートが生成され、ファイルを表示するか、ディスクに保存するかを選択するように求められます。PDF を選択した場合は、レポートが表示されます。

ステップ 7 レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.18-26 の「レポートのメール送信」に記載されている手順を実行してください。

関連項目

- [Authorization Code Name レポートの設定 \(P.19-30\)](#)
- [Authorization Level レポートの設定 \(P.19-32\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の「CDR Analysis and Reporting」

Authorization Code Name レポートの設定

Authorization Code Name レポートを生成できるのは、CAR 管理者だけです。選択された各許可コード名に関連するコールについて、発信番号と宛先番号、発信日時、通話時間（秒）、コール分類、および許可レベルを示すレポートを生成できます。



(注) セキュリティ上の理由で許可コードは表示されません。代わりに、許可コード名（説明）が表示されます。

特定の許可コード名の使用状況を示すレポートを生成する手順は、次のとおりです。



注意

CAR は、オフピーク時だけ使用してください。それ以外の時間に使用すると、データの収集とレポートの生成により、Cisco CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

ステップ 1 **System Reports > FAC CMC > Authorization Code Name** の順に選択します。

Call Details for Authorization Code Name ウィンドウに、システムで設定されているすべての許可コード名が一覧表示されます。

ステップ 2 List of Authorization Code Names ボックスで、レポートに含めるコード名を選択します。



(注) 最大 30 個のコード名を選択できます。

ステップ 3 Down ボタンをクリックして、選択したコード名を Selected Authorization Code Names ボックスに追加します。

このレポートには、データが使用可能であり、このボックスにリストされているすべてのコード名が含まれます。

ステップ 4 From Date プルダウン リスト ボックスと To Date プルダウン リスト ボックスに、許可コード名の情報を表示する期間の日付範囲を入力します。

ステップ 5 CSV (comma separated value) 形式でレポートを生成する場合は、Report Format で CSV オプション ボタンを選択します。PDF (portable document format) 形式でレポートを生成する場合は、Report Format で PDF オプション ボタンを選択します。



(注) CSV ファイルは、CAR で表示するか、ディスクに保存して Microsoft Excel などのスプレッドシート アプリケーションを使用して表示できます。PDF ファイルは、Adobe Acrobat Reader を使用して CAR で表示できます。

ステップ 6 View Report をクリックします。

CSV を選択した場合、レポートが生成され、ファイルを表示するか、ディスクに保存するかを選択するように求められます。PDF を選択した場合は、レポートが表示されます。

ステップ 7 レポートをメールで送信する場合は、Send Report ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.18-26 の「レポートのメール送信」に記載されている手順を実行してください。

関連項目

- [クライアント マターコード レポートの設定 \(P.19-28\)](#)
- [Authorization Level レポートの設定 \(P.19-32\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の「CDR Analysis and Reporting」

Authorization Level レポートの設定

Authorization Level レポートを生成できるのは、CAR 管理者だけです。選択された各許可レベルに関連するコールについて、発信番号と宛先番号、発信日時、通話時間（秒）、コール分類を示すレポートを生成できます。

特定の許可レベルの使用状況を示すレポートを生成する手順は、次のとおりです。



注意

CAR は、オフピーク時だけ使用してください。それ以外の時間に使用すると、データの収集とレポートの生成により、Cisco CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

ステップ 1 **System Reports > FAC CMC > Authorization Level** の順に選択します。

Call Details by Authorization Level ウィンドウに、システムで設定されているすべての許可レベルが一覧表示されます。

ステップ 2 List of Authorization Levels ボックスで、レポートに含めるレベルを選択します。

ステップ 3 Down ボタンをクリックして、選択したレベルを Selected Authorization Levels ボックスに追加します。

このレポートには、データが使用可能であり、このボックスにリストされているすべてのレベルが含まれます。



(注) ルート パターンに関連付けられている FAC 許可レベル レポートだけが生成されます。

ステップ 4 From Date プルダウン リスト ボックスと To Date プルダウン リスト ボックスに、許可レベルの情報を表示する期間の日付範囲を入力します。

ステップ 5 CSV (comma separated value) 形式でレポートを生成する場合は、Report Format で CSV オプション ボタンを選択します。PDF (portable document format) 形式でレポートを生成する場合は、Report Format で PDF オプション ボタンを選択します。



(注) CSV ファイルは、CAR で表示するか、ディスクに保存して Microsoft Excel などのスプレッドシート アプリケーションを使用して表示できます。PDF ファイルは、Adobe Acrobat Reader を使用して CAR で表示できます。

ステップ 6 **View Report** をクリックします。

CSV を選択した場合、レポートが生成され、ファイルを表示するか、ディスクに保存するかを選択するように求められます。PDF を選択した場合は、レポートが表示されます。

ステップ 7 レポートをメールで送信する場合は、**Send Report** ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.18-26 の「レポートのメール送信」に記載されている手順を実行してください。

関連項目

- [クライアント マターコード レポートの設定 \(P.19-28\)](#)
- [Authorization Code Name レポートの設定 \(P.19-30\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の「CDR Analysis and Reporting」

システムの概要の設定

すべてのシステム レポートを 1 つのレポートで表示するシステム概要レポートを生成するのは、CAR 管理者だけです。

システムが自動的に生成するレポートを表示するか、新しいレポートを生成することができます。レポートの自動生成をスケジュールできるのは、CAR 管理者だけです。詳細については、P.16-13 の「システム スケジューラの設定」を参照してください。



注意

CAR は、オフピーク時だけ使用してください。それ以外の時間に使用すると、データの収集とレポートの生成により、Cisco CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

ここでは、Cisco CallManager システムについての要約情報を生成、表示、またはメール送信する方法を説明します。

手順

ステップ 1 System Reports > System Overview の順に選択します。

System Overview ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Available Reports フィールドで、自動的に生成されたレポート（入手可能な場合）を選択するか、デフォルトの Generate New Report を使用します。

ステップ 3 Generate New Report を選択した場合、レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

ステップ 4 List of Reports で、生成するレポートを強調表示し、次に下向き矢印アイコンをクリックして選択します。

選択したレポートが Selected Reports リスト ボックスに表示されます。

**ヒント**

複数のレポートを一度に強調表示するには、キーボードの Ctrl キーを押した状態でレポートをクリックします。

- ステップ 5** CSV 形式でレポートを表示する場合は、**Report Format** 領域で CSV (comma separated value) を選択します。PDF 形式でレポートを表示する場合は、**Report Format** 領域で PDF (portable document format) を選択します。

CSV ファイルは、CAR で表示するか、ディスクに保存して Microsoft Excel などのスプレッドシートアプリケーションを使用して表示できます。PDF ファイルは、Adobe Acrobat Reader を使用して CAR で表示できます。

- ステップ 6** **View Report** ボタンをクリックします。

CSV を選択した場合、レポートが生成され、ファイルを表示するか、ディスクに保存するかを選択するように求められます。PDF を選択した場合は、レポートが表示されます。

- ステップ 7** レポートをメールで送信する場合は、**Send Report** ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.18-26](#) の「[レポートのメール送信](#)」に記載されている手順を実行してください。

関連項目

- [システム概要レポートの結果 \(P.A-14\)](#)
- [レポートの自動生成の有効化またはカスタマイズ \(P.17-14\)](#)

CDR エラーの設定

CDR エラー レポートを生成するのは、CAR 管理者だけです。このレポートは、CAR Billing_Error テーブル内のエラー レコード数の統計、およびエラーの理由を表示します。

ここでは、CDR エラーについての情報を生成、表示、またはメール送信する方法を説明します。



注意

CAR は、オフピーク時だけ使用してください。それ以外の時間に使用すると、データの収集とレポートの生成により、Cisco CallManager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

ステップ 1 **System Reports > CDR Error** の順に選択します。

CDR Error ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

ステップ 3 CSV 形式でレポートを表示する場合は、**Report Format** 領域で **CSV (comma separated value)** を選択します。PDF 形式でレポートを表示する場合は、**Report Format** 領域で **PDF (portable document format)** を選択します。

CSV ファイルは、CAR で表示するか、ディスクに保存して Microsoft Excel などのスプレッドシート アプリケーションを使用して表示できます。PDF ファイルは、Adobe Acrobat Reader を使用して CAR で表示できます。

ステップ 4 **View Report** ボタンをクリックします。

CSV を選択した場合、レポートが生成され、ファイルを表示するか、ディスクに保存するかを選択するように求められます。PDF を選択した場合は、レポートが表示されます。

ステップ 5 レポートをメールで送信する場合は、**Send Report** ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.18-26](#) の「[レポートのメール送信](#)」に記載されている手順を実行してください。

関連項目

- [CDR エラー レポートの結果 \(P.A-16\)](#)

QoS パラメータの演算子

表 19-12 に、QoS パラメータの演算子を示します。

表 19-12 QoS パラメータの演算子

演算子	説明
>=	指定された値より大きいか、等しいジッタ、待ち時間、または消失パケットのデータを生成する場合に、この演算子を選択します。
=	指定された値と等しいジッタ、待ち時間、または消失パケットのデータを生成する場合に、この演算子を選択します。
<=	指定された値より小さいか、等しいジッタ、待ち時間、または消失パケットのデータを生成する場合に、この演算子を選択します。
N.A.	ジッタ、待ち時間、または消失パケットのデータを除外する場合に、この演算子を選択します。
Between	ある値と別の値との間にあるジッタ、待ち時間、または消失パケットのデータを生成する場合に、この演算子を選択します。この演算子を選択すると、別のフィールドが表示され、開始値と終了値を設定できます。